

# 国保広域化への準備状況は



宇津木 治宣



町長

## 納付金の仮算定が示された

**質問** 平成30年度から国民健康保険の運営主体が県単位となるが、準備状況は。

**答弁** 町長 11月に県国保運営協議会において、各市町村の30年度国民健康保険納付金の試算が示された。

**質問** 国保広域化による国保税の負担増はないか。

**答弁** 町長 30年度の納付額は10億5236万円と試算されている。税率は、2月の町国保運営協議会の場において検討していく。

**質問** 福祉の向上、健康増進という自治体の最重要機能が損なわれる懸念はないか。

**答弁** 町長 国保広域化後も特定健診や人間ドック助成などの保健事業に、これまでどおり取り組んでいく。

## 住宅リフォーム制度の再開を

**質問** 住宅リフォーム制度の再開で地域経済活性化を。



住宅屋根のリフォーム

**答弁** 町長 この制度は、地域経済活性化の推進を目的に、緊急経済対策事業としてスタートしたが、平成26年度で終了している。4年間で1417件の利用があり、工事費も12億円と活用された。

**質問** 3年が経過し、新たな需要も期待できるのでは。

**答弁** 町長 地域経済の活性化は、重要であると認識している。今後町民ニーズや財政状況を踏まえながら制度再開を検討したい。

## 勤労者センターの存続について問う

**質問** 町は勤労者センターをJ Aに返還し、世代交流多

目的施設(※1)を建設するとしていたが、方針を転換するのかが。

**答弁** 町長 財政状況が厳しい中、代替施設の建設や既存施設の解体には多額の費用が見込まれるため、新たな施設の建設は難しいと判断した。そこで、勤労者センター敷地の譲渡をJ Aに申し入れ、勤労者センター施設の継続使用を図りたい。

**質問** J Aの支所統合によって役場周辺も大きく変わった。勤労者センターの存続は大いに意義がある。

**答弁** 町長 10月6日にJ A佐波伊勢崎に用地取得の協議を申し入れた。11月1日に、協議受け入れの回答をもらい、協議を開始している。

こんな質問もしています

・平成30年度の予算編成方針と重点項目について問う

※1 世代交流多目的施設とは11ページを参照

# 協働によるまちづくり推進を



新井 賢次



町長

## 積極的に「ぱる」の活動を支援したい

**質問** 活動拠点となる住民活動サポートセンターぱるの実績と、今後の課題、期待はどうか。

**答弁** 町長 登録団体は昨年度末で85団体、個人登録は48名で毎年増加している。またさまざまな団体等との架け橋となり活動を広げている。

これからは、大学や高校、企業との連携体制づくりの強化が必要になる。ますます少子高齢化が進む地域で、住民活動の拠点



水辺の森 秋のフォレストウォーキング

点としての役割に期待している。また、町は積極的にぱるの活動を支援していきたい。

**質問** 協働によるまちづくり提案事業の成果と今後の予算確保はどうか。

**答弁** 町長 「水辺の森を愛する会」等が継続して活発に活動している。

**答弁** 経営企画課長 基金を創設し運用しており、概ね今後10年程度の財源の裏付けはできている。

## 地域資源の再評価と観光資源化を求む

**質問** 蔵や古民家、歴史的資源、空き家等の保存、再生活用を、将来への積極的投資として考えてほしい。

**答弁** 町長 玉村八幡宮や赤煉瓦倉庫、井田酒店主屋・酒蔵周辺を歴史的交流拠点として位置づけ、住民と来町者が集うコミュニケーション空間として再生を図る必要性は認識している

し、保存する価値はあると思う。しかし町内には多くの建物等があるため、活用方法や保存方法などを含め研究していく。

空き家の利活用については町が積極的に関与していく必要がある。他の施策と整合性を図りながら、空き家対策計画を策定する中で検討していく。

**質問** 「ぐんまみらいカフェ @玉村町」に、『玉村町の未来図・家族サイズのまち』として新しい未来像が報告されている。まちの魅力づくりに活用できないか。

**答弁** 町長 町としては、玉村町版生涯活躍のまち(※1)推進事業において、魅力の発見、創造、発信の協議を進めている。

※1 玉村町版生涯活躍のまちとは、ファミリー層からシニア層までの幅広い年齢層に対応する玉村町独自のCCRC構想。健康時から介護時まで継続的にケアを提供する共同体を「CCRC」といい、国は日本版CCRCを「生涯活躍のまち」と名づけ、地方創生の柱としている。